

グローバルCOEプログラム「コンフリクトの人文科学国際研究教育拠点」
「コンフリクトの人文科学」セミナー 第18回

米国とメキシコに展開するトランスナショナルな社会空間と
対立する感情：メキシコ人移民の一時帰省の事例

講師：平井 伸治（メトロポリタン自治大学人類学科研究員）

要旨：

トランスナショナルリズム研究において、これまで提案されてきた社会空間モデルの多くは、国境を越えて移動する者だけを分析の対象にしてきたため、移民と故郷に残された人々の間に存在する不均衡な力関係や対立といった問題は十分に検討されてこなかった。本稿では、こうした点を踏まえて、メキシコ北西部の移民送り出し社会における、ホームランドのイメージの定義と文化とアイデンティティの語り方をめぐって、移民と故郷の住民との間に起きたコンフリクトの事例を紹介する。その際に注目するのが、ノスタルジーという感情である。米国で移民が経験した疎外感から生まれたこの感情は、一方で移民の一時帰省ラッシュを引き起こし、故郷において、地域経済、ローカル・フェスティバル、地元の知識人による文芸活動を活性化させてきた。しかし、他方で、ノスタルジーは、移民を通じて米国からもたらされるモノ・お金・ライフスタイルによって、故郷の伝統文化が「破壊されていく」と嘆く地元保守層が、移民を批判し、排他的なアイデンティティを語る際に利用する感情でもある。

講師紹介：

慶應義塾大学文学部卒業後、1999年にメキシコ、メトロポリタン自治大学大学院人類学科に留学。2007年11月、人類学博士号を取得。メトロポリタン自治大学を拠点とする移民研究のデジタル・ライブラリー製作プロジェクト（2005年11月－2006年4月）、「トランスナショナル・コミュニティとディアスポラにおける経済・文化・権力」研究プロジェクト（2006年9月－現在）に参加。論文に、「ゲームの中のマクスモ：アマチュア・サッカーとメキシコの多様な『男らしさ』」（『社会人類学年報』28号、2002年）、"La Virgen de la Asunción viaja a California: migrantes mexicanos y construcción de circuitos simbólicos y emocionales transnacionales" (e-MISFERICA, Vol. 5.1, 2008)などがある。

日時：2008年7月24日（木） 17:00 から 19:00

会場：大阪大学大学院人間科学研究科（吹田キャンパス） 東105教室（参加無料）

東館は、万博外周道路側の別館です。大阪大学大学院人間科学研究科（吹田キャンパス）への交通アクセスは<http://www.hus.osaka-u.ac.jp>をご参照ください。

お問い合わせ先：

大阪大学大学院人間科学研究科人類学研究室

e-mail: globalra@hus.osaka-u.ac.jp

電話 06-6879-8085

06-6877-5111

